

# まちづくり再発見

あなたの“思い”が  
元気な 楽しい まちをつくる



あなたにとって『まちづくり』とはどんなものでしょうか。『まち』はさまざまな形でつくられています。大規模な開発だけでなく、地域に根ざした地道な活動が地域のニーズに合った『まち』をつくるための大きな力になっています。

ここでは、『まち』に対する自らの思いを形にするために、長年活発に活動している2つの団体を紹介しします。

## 子育て支援ワーカーズ

### プーのいえ

『プーのいえ』は、NPO法人北海道子育て支援ワーカーズの構成団体。利益を生み出すことを主目的にせず、メンバーが協同で事業の運営・労働・出資を行う、「ワーカーズ・コレクティブ」という形で活動しています。有料の出張保育のほか、四歳の子どもと親と一緒に楽しむ「プーくらぶ」や、地域の親子が集まって一緒に遊ぶ「あそびのひろば」などの子育て支援活動を行っています。



▲「プーのいえ」のメンバー  
(前列中央が代表の小川さん)

設立から十年。「あつとという間だった」と、メンバーは口を揃えます。全員が対等の立場で地域にとって必要なもの

を考え、議論しながら思いを形にしていく、その働き方自体に共感し、思いを共有するメンバーがここには集まっています。代表の小川京子さんは「お互いに思ったことを率直に言い合って切磋琢磨しています。とことん話し合って進めるから、思いを共有できるんです」と言います。

「明るい笑い声がこだまする、信頼でつながれた安全で楽しい保育」をモットーに、子どもだけでなく、親子が一緒に育っていくための支援を日々行っています。

また、手稲のまちづくりを考え、「手稲夢しんぶん」で情報を発信する「手稲新聞車」にも参加し、中心的な役割を担っています。「世代も職業も違う、幅広い層の人と出会えることはとても新鮮。いろいろなつながりを持つことで、いろいろな『自分の切り口』を見つけ出せたらいいですね。子どもにとっても、親

以外の大人と関わることは大切なこと。そういう経験をして育った子どもは幸せだと思えますよ」と小川さんは言います。「子育てには、人付き合のエッセンスがいっぱい。人と人とのつながりを大切に、さらに広げていってもらえるように、親子の子育て支援を通じて力になれば」といいます。

「『元気な地域づくり』が私たちの目標。それには『元気な人づくり』が欠かせません。世代を越えて人が育ち、地域力が育つことが『まちづくり』になるのではないのでしょうか」と小川さん。人とのつながりが人を育て、地域のつながりが地域を育てていく。そんな地道な一歩一歩が、まちづくりには欠かせないのではないでしょうか。

